古民家の野外博物館
日本民家園だより

昭和63年度第4号
≪通号第15号≫
発行　1.2.1
川崎市立日本民家園
川崎市多摩区枡形7-1-1
電話(044)922-2180~1
印刷　(資)永　申　社

白川系の「合掌造り」，旧山下家住宅

- 旧山下家住宅
- 神奈川県指定重要文化財
- 切妻造り茅葺き（合掌造り）
- 平入り（休憩所として使用のため、仮設的に妻入り）
- 平面積　214.59㎡
- 延面積　482.00㎡
- 前所在地　川崎市川崎区小川町
- 旧所在地　岐阜県大野郡白川村長瀬
- 昭和33年12月　白川村より川崎区に移築
- 昭和44年9月　千葉健三氏より川崎市に寄贈
- 昭和45年　川崎区より日本民家園への解体・輸送工事着手
- 昭和46年3月　移築復原完了
- 昭和47年11月　県重要文化財に指定される

正　側　面

◆2回の移築を経た家

この家は白川郷の各家がダム建設により水没するため全国各地へと移築された時に川崎区へ料亭として移されました。その後、二階から上が火災に遭い、トタン葺に改造されましたが、園への再移築時に茅葺きに戻し、間取りも調査の上、建築当初の姿に復しました。ただし休憩所・民具資料室として使用する予定でしたので妻側に出入口を設け、二階への階段に巾広の別のものを取付け、公衆便所を張り出して加えたりしていますので、白川系合掌造りの姿に見えませんが、これらは仮設的なもので、本来は平入り・切妻の純白川系です。なお当初の出入口は“そば屋”の厨房の出入口となっている、現在の出入口に向って右の横です。四つある合掌造りのうち唯一の岐阜県のものであり、他の三家と比較して細部をご覧いただくと興味が増すことと思います。建築年代は資料・構造様式よりみて19世紀初めごろであろうと推定されます。

◆みどころ

- 急勾配の屋根と三角広間の利用
- 壁に土壁がないこと、横嵌(ハメ)板壁が建てこみ（建築するとき板を溝に入れながら同時に組む）であること。

振り返って…なお…

川崎市立日本民家園　第７代
参事・園長　早　野　　清

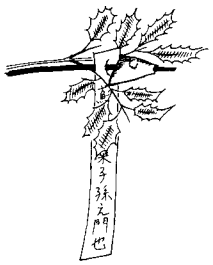
日本民家園が開園20周年を迎えた一昨年の５月に就任して以来、早くも１年９ケ月が経過しました。就任にあたっての挨拶において「20年を機に何をなすべきかが私の課題である」と書きましたが、任期をあと僅かに残した現在、この２年あまりを振り返ってみると、いったいどれほどのことができたのかと少々不安に駆られております。

日本民家園は、御承知の通り「家と暮らしの野外博物館」を標榜しております。私の在任中「家」に関しましては、旧佐地家の門が復原され昨年５月１日より公開されたことをはじめ、本園における最後の移築となる予定の旧岩澤家住宅（神奈川県愛甲郡清川村）が現地において解体され、園内に格納されたなどということがありました。そして現在復原予定地が造成されつつあるという状況です。

また一方「暮らし」に関しましては、各種行事を通して来園者に過去の生活の息吹を感じていただくよう努めてまいりました。「暮らし」を再現する地道な活動を日頃支援していただいている民具製作技術保存会が昨年発足15周年を迎えたことも記念すべきことでした。

今後の民家園をどのように発展させるかを考えますと、まだまだやらなければならない仕事が山積していることを痛切に感じます。例えば、それぞれの展示古民家の旧所在地が持つ特色のある郷土の味を食堂・売店などでどのように表現していくかなど、考え始めますと際限なく広がってまいります。これからも日本民家園に対する御支援・御協力をどうぞ宜しくお願い致します。

川崎市域の節分行事



ヤッカガシ

節分とは、暦の上で立春の前日をさします。この日を節替（セツガワ）りというのは古い呼び方らしく、節分の夜を大年（オオトシ）・歳の夜などと呼ぶ例があるのは、立春を年のあらたまる日と考える風習があったことを示しています。川崎市の岡上（麻生区）でも、この日を年越しと呼んでいます。

節分の行事には、主として邪霊災厄を防ぐものが多く行われています。鰯の頭を豆殻に刺して、火であぶり、柊（ヒイラギ）といっしょに、戸口にさす風習は、全国的にみられるものですが、川崎市域ではこれをヤッカガシ（焼嗅（ヤイカ）がし）と呼んでいます。焼嗅がしとは、嗅気で鬼や厄病神を追い払う呪法のことで、鰯の頭を焼くにおいと柊の棘が魔物よけになるといわれています。節分の豆を煎る時には、稲田地区（多摩区）では、なす殻、豆殻、菊殻を燃やして「良いことときくから借金なすがらまめでくらすよう」といい、大師（川崎区）の周辺では、「なしの虫の口を焼き、桃の虫の口を焼く」と唱えました。後者は虫の口焼きといって、害虫を封じるまじないとされています。煎った豆は一升枡に入れて神棚に供えておき、夕方「福は内福は内、鬼は外」といいながら、各部屋、仏壇、家の中の神様、井戸、物置、蔵、便所など、正月のオスワリ（鏡餅）を供えた所にまきます。全国的にみると、豆まきは節分に限らず大晦日などにも行われており、新しい年を迎えるにあたって邪気を払う一つの方法であるようです。

園の動き

◆ 『文化の日無料開園』と自由参加行事の開催 ＜11/3＞

晴れ渡った秋空の下、二千余名のお客様が入園。わら細工をしたり、園内の解説を聴いたり、昔の文化に親しんでいただきました。

◆ 民具づくり教室 ―しめ縄作り― 開催 ＜12/4、11＞

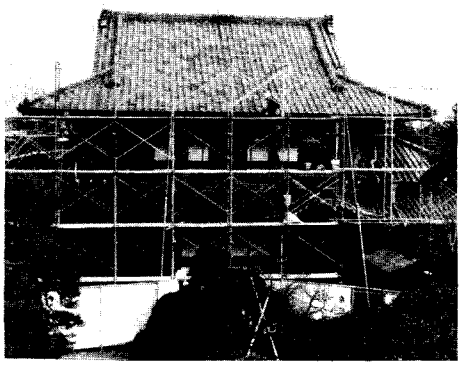
「お正月には我が家に手作りのしめ縄を飾るんだ！」という夢（?!）を持って、2日間で延べ19人が参加。民技会会員による指導のもと、しめ縄作りに奮闘しました。

◆ 旧原家住宅解体工事開始 ＜12/15＞

市内中原区小杉陣屋町にある原氏の住宅を「日本民家園本館建築構想」における分棟型本館の一棟として、移築することが決定され、いよいよ解体が開始されました。

旧原家住宅は明治44年に上棟された木造二階建て、入母屋造り、正面には式台付き玄関を構え、桟瓦葺の建物です。

原氏は、古くからこの地方屈指の地主であり、その住宅も大地主に相応しい立派なものとなっています。



解体工事中の旧原家住宅

◆ 体験学習 ―マユダンゴ作り― 開催 ＜1/8＞

昭和天皇の崩御のためか参加者はなく、民技会会員と園内の職員の手によって小正月の飾りつけが行なわれました。来年は多くの方の参加をお待ちしています。

催し物のご案内

◆ 体験学習 ―草ダンゴ作り―

＜2/26(日)＞

○定員 20組の親子（原則として小学校4年生以上） ○教材費 1人300円

○申込み 2月12日（日）午前9時から電話で先着順

◆ 民具づくり教室 ―紙すき―

＜3/12(日)＞

○定員 30名（原則として小学校6年生以上） ○教材費 1000円 ○申込み 2月26日(日)から往復ハガキで先着順（ハガキ1枚につき1人）

…年中行事展示…

◆ 節分 ＜2月中＞

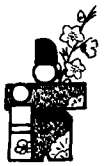
イワシの頭をつけた豆殻とお札をつけたヒイラギを出入口にさしておきます。

◆ 八日僧 ＜2月中＞

12月8日・2月8日にやってくる魔物を追い払うため目かごを軒に高く掲げます。

◆ ひな祭り ＜3月中＞

元来は人についた穢（ケガレ）を人形（ヒトガタ）にうつして川へ流すというものが、次第に雛飾りをするように変化したものです。



園内の石造物案内(3)　－道祖神,六地蔵－

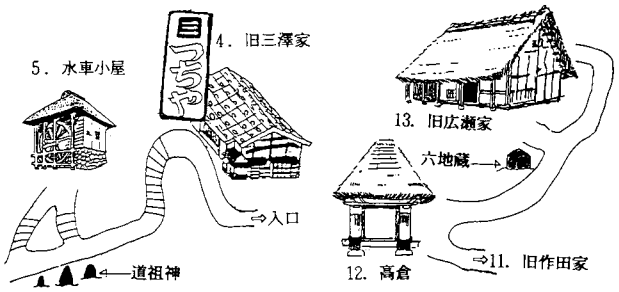
◆ **道　祖　神**　道祖神はいろいろな信仰を含んでいますが、本来は境を守り悪霊の侵入を防ぐ神でした。それが村境や辻、峠などに祀られているところから、旅の神あるいは道の神という性格を持つようになりました。またさらに、他の様々な信仰と結びつき、縁結びの神、縁切りの神、子どもの守護神、産の神、増産農作の神などといった性格を持っているものも多く見られます。

道祖神は、普通ドウソシン、ドウロクジン、サエノカミ、サイノカミなどと呼ばれ、その信仰は、ほとんど全国に渡っています。しかし石塔を建てる地域は限られており、主に東日本に集中しています。石塔の形態は、丸石、陰陽石、石像、石祠など様々ですが、群馬、神奈川、静岡、山梨、長野の諸県には双体道祖神が、また東北地方には陽石が多く見られます。園内水車小屋付近にある双体道祖神は、長野県南佐久郡八千穂村から受け入れたもので、旧所在地においては、ドウロクジンと呼ばれていたものです。

水車小屋付近の双体道祖神

旧広瀬家付近の六地蔵

◆ **六　地　蔵**　地蔵菩薩は釈迦入滅後、弥勒仏が出世するまでの無仏の間にこの世に現われ衆生を救済する菩薩です。平安時代の中頃から極楽浄土の信仰が盛んとなり、末法思想が起こるにつれて、地蔵は常に地獄、餓鬼(ガキ)、畜生(チクショウ)、修羅(シュラ)、人間、天上(テンジョウ)の六道をめぐって衆生を救い、極楽に行けるように力を貸してくれると信じられるようになりました。それが室町時代以降、六道に対して一体ずつ地蔵の分身を配した六地蔵の信仰が盛んになると、石造りの六地蔵が多く造られ始めました。今日でも、寺院の門前や墓地の入口などに、丸彫り像、舟形光背浮彫り像を六体並べたもの、あるいは一石に六体並べて彫ったもの等、様々な形態の六地蔵が見られます。園内旧広瀬家住宅入口付近にある六地蔵は、山梨県塩山市上萩原から受け入れた旧広瀬家住宅の屋敷内にあったものです。

編集後記

寒さが身にしみる日々が続いています。この季節の民家園は人影もまばらで、ちょっと寂しい雰囲気となっています。そんな中でただ一人、冬用の毛皮に身を包み、元気一杯なのはウサギのクロちゃんです。民家園に住みついて早二年半、今年の冬の厳しさも、彼女は全く平気なのでしょう。我々人間は、ただただ羨ましい限りです。（S）